

【議事要旨】第6回 AI ロボティクスに関する関係府省庁連絡会議幹事会

1 日時

令和8年8月20日（木）11:00～12:00

2 場所

内閣府合同庁舎8号館8階共用特別大会議室

3 出席者

＜議長＞

貴田 仁郎 内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）

＜副議長＞

寺川 聡 経済産業省商務情報政策局 AI ロボティクス室長

＜主査＞

岡部 渉 内閣官房日本成長戦略本部事務局参事官

古賀 康之 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局人工知能政策推進室参事官

＜構成員＞

神崎 忠彦 内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）

清橋 秀聡 （代理）内閣府政策統括官（防災担当）付

参事官（政策調整担当）付参事官補佐

塚田 裕介 （代理）内閣府政策統括官（防災担当）付

参事官（防災デジタル・物資支援担当）付参事官補佐

秋庭 州 （代理）警察庁長官官房技術企画課課長補佐

藤森 大輔 （代理）警察庁生活安全局生活安全企画課生活安全産業室長

市原 剛俊 （代理）こども家庭庁長官官房総務課サイバーセキュリティ・情報化企画官

氏原 拓 復興庁福島国際研究教育機構室参事官

千葉 周平 消防庁総務課技術戦略室長

臼井 暁子 文部科学省研究振興局基礎・基盤研究課融合領域推進官

坂本 和也 厚生労働省医政局総務課医療政策企画官

森 桂 厚生労働省医政局研究開発政策課長

飯村 康夫 厚生労働省医薬局医療機器審査管理課長

上田 真琴 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課課長補佐

和田 淳平 （代理）厚生労働省老健局高齢者支援課

介護業務効率化・生産性向上推進室長補佐

阿部 尚人 農林水産省大臣官房政策課技術政策室長

大塚 裕一 農林水産省大臣官房新事業・食品産業部食品製造課

原材料調達・品質管理改善室長

塚田 直子 林野庁森林整備部研究指導課技術開発推進室長

山瀬 敦子 経済産業省大臣官房産業保安・安全 G 保安政策課産業保安企画室調整官

是永 基樹 経済産業省製造産業局産業機械課長兼製造産業DX政策企画調整官

佐藤 猛行 経済産業省商務・サービス G 流通政策課長兼物流企画室長

丸山 晴生 （代理）経済産業省商務・サービス G 医療・福祉機器産業室室長補佐

高橋 伸輔 国土交通省大臣官房参事官（イノベーション）

林 健一 国土交通省総合政策局技術政策課技術開発推進室長
勝又 賢人 国土交通省住宅局住宅生産課長
吉田 正則 国土交通省海事局船舶産業課長
根来 恭子 観光庁参事官（旅行振興）
加藤 聖 環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課長
海江田 達也 防衛装備庁技術戦略部技術戦略課長

<オブザーバー>

高野 隼一 （代理）総務省国際戦略局技術政策課研究推進室課長補佐
鈴木 一聡 （代理）厚生労働省労働基準局安全衛生部安全課中央産業安全専門官

<事務局>

奥家 敏和 経済産業省大臣官房審議官（商務情報政策局担当）

4 議事要旨

○開会

○議事

・ 「飲食・食品製造業」及び「医療」のロードマップ追加について

農林水産省及び厚生労働省から、新たに追加する飲食・食品製造業分野及び医療分野のロードマップについて説明がなされるとともに、事務局からロードマップの改定について説明がなされた。概要は以下の通り。

- ・ 飲食・食品製造業分野については、飲食業の案内・配膳・下膳及び食品製造業の盛付けを短期実装の対象として整理した。中小・小規模事業者が多いことを踏まえ、導入支援策とあわせて、先行ユースケースの蓄積・横展開、食品企業・機械メーカーの人材育成を推進するとともに、食品を扱う特有の衛生要件等について詳細な要件整理を進める。
- ・ 医療分野については、先行領域での導入とユースケースの横展開、医療機関・ベンダー双方の人材不足に対する伴走支援、開発・実証に必要なデータ基盤の整備を進める。診療報酬が公定価格であることによる導入負担に対しては、導入支援の強化と導入効果の適切な評価により対応するとともに、患者の状態・ケア情報の記録連携に向けたモデル・端末の開発を進める。
- ・ ロードマップの改定として、短期タスク及び短期技術マップの更新を行うとともに、製造業及びインフラ保守分野についてロードマップの更新を実施した。

・ 令和9年度AIロボティクス関係予算の概算要求とりまとめについて

副議長から、令和9年度概算要求におけるAIロボティクス関連予算の全体像について説明がなされるとともに、文部科学省から関連する取組について発言がなされた。概要は以下の通り。

- ・ 本とりまとめの趣旨としては、政府全体でAIロボティクス関連予算の全体像を整理し、

府省庁横断での連携を図るもの。

- ・ 第一に、分野横断で活用する基盤の整備として、マルチモーダル基盤モデルやロボット基盤モデルの開発、重要コンポーネント・部品、オープンな開発・流通の仕組み、量産支援、社会実装に向けた導入支援等を位置付ける。
- ・ 第二に、各分野の現場に適した AI ロボット開発として、造船、建設・土木、農業、林業、医療、介護、防衛等の分野で進める。
- ・ 第三に、開発と導入をつなぐ横断的な環境整備として、AI ロボティクスの中核拠点構築事業（以下、CoE）を中心に、実証・データ収集・人材育成・標準化を一体的に推進する。
- ・ 文部科学省から、令和 9 年度概算要求に向けて AI for Science 革新的研究推進事業の強化・拡充の一環として、バーティカル AI 領域別戦略で設定された各領域における産学連携の枠組みや、CoE 等で収集される大規模データの活用を検討している旨の発言があった。

- ・ AI ロボティクス戦略に基づく今年度の取組方針について

各府省庁から、AI ロボティクス戦略に掲げる 18 分野の今年度の取組方針について発言がなされた。主な発言の概要は以下の通り。

- ・ 製造業では、多品種少量生産に対応するため、令和 7 年度補正予算による工程集約型設備の更新支援等に取り組むとともに、製造 AX 拠点を通じたデータ活用により製造分野の DX を進める。
- ・ 造船分野では、複雑な工程の AI ロボットへの置換え、暗黙知を含む現場データの収集・蓄積、人とロボットが混在する現場を前提とした安全性評価・ガイドライン整備の三点を進める。
- ・ 物流分野では、AI ロボティクス戦略事業を活用したまとまった規模での導入・データ蓄積により、より安価で高性能なロボットの開発・実装を進めるとともに、CoE 事業により導入ハードルの軽減やコモディティ化を検証する。
- ・ 建設・土木分野では、秋口を目途に産官学コンソーシアムを設置し、データ収集基盤・実証環境の整備や屋外作業特有の安全・コスト課題の整理を進める。
- ・ 建築分野では、高額な設備投資やビル連携・自動走行の困難さを課題とし、ビル連携や省人化機器の導入支援制度等を検討していく。
- ・ インフラ保守分野では、業界横断で市場を整理しつつ、センサー等を監視用途から汎用用途へ転換し、優先度の高い領域からデータを取得する。
- ・ 小売分野では、AI ロボティクス関連予算を活用して導入ハードルの低減や人材育成を進めるとともに、協調領域における商品情報の標準化（商品情報プラットフォーム構想）に取り組む。

- ・ 宿泊分野では、客・スタッフと混在する狭い施設に対応できるロボットの開発を課題とし、省力化投資補助を含め小規模事業者の設備導入を引き続き支援する。
- ・ 飲食・食品製造業分野では、飲食・食品製造業現場へのロボット等の自動化技術の導入を判断する事業者の取組をサポートするガイドブックやガイドラインの周知や、省力化技術導入支援事業等を用いて生産性向上を進めるとともに、技術開発についても SBIR 等の予算を活用しながら進めていく。
- ・ 医療分野では、技術課題としては、安全に動作するリアルタイム制御技術及び人と協働するロボティクス技術の確立が求められているため、本課題への対応施策を検討するとともに、既存予算等を活用して医療現場の業務効率化に係る導入費用を補助する。
- ・ 介護分野では、導入費用の補助や生産性向上の実証事業を実施するとともに、経済産業省と連携し配膳・介護記録等のユースケースに係る介護向け基盤モデルの開発・実装を進める。
- ・ 警備業では、先行事例の巡回業務を重点的に進めるとともに、警備員数 100 人未満が約 9 割を占める実態を踏まえ、中小・零細企業向けのユースケースを業界団体と連携して調査する。
- ・ 農業分野では、スマート農業技術の開発・普及として、導入コスト低減・人材育成・通信環境整備を進めるとともに、教師データ作成や汎用モデル等の技術開発などに取り組む。
- ・ 林業分野では、自動化ニーズが高い一方で不整地・通信制約により未実用化であることを踏まえ、急傾斜地での安定走行や通信非依存の自動運転技術の開発、安全確保ガイドラインの検討を進める。
- ・ 廃棄物処理分野では、環境研究総合推進費等を活用し、有害廃棄物等を対象とした非接触型の収集・分別や自動選別技術の開発・実証を進める。
- ・ 災害対応分野では、放水型ロボットや四足歩行ロボット等について消防本部・企業と連携して現場検証を進めるとともに、福島ロボットテストフィールドや消防研究センターを活用した技術検証を実施する。
- ・ 警察活動分野では、大規模災害・テロ等の現場での活用を軸に、技術シーズの把握や横展開を進めるとともに、中長期的観点から CoE 等と連携して研究開発を推進する。
- ・ 防衛分野では、ヒューマノイドの開発は非常に重要であると考えており、今後、研究開発を本格的に進めてい。

本日の議論を踏まえ、8月28日の第4回関係府省連絡会議に向けて適切に反映していく。

○閉会